

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.62

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

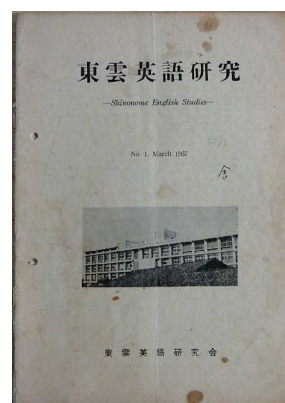
<エッセイ>

東雲の空

馬本 勉

母校の中学に「東雲(しのめ)の空」という校歌がある。「東雲の空明けゆきて」「若き文化の源の」「古き歴史の伝えより」「新生の鐘鳴り渡る」「アトムを試練かがみとし」「平和の鳩の飛ぶ所」などと歌った頃を懐かしく思い出す。広島市の東新開と呼ばれた埋立地がのちに東雲という町名になり、太平洋戦争開戦の年には師範学校が皆実町から移転してきた。高師(広島高等師範学校)ではなく、県師(広島県師範学校)のほうだ。戦後に開校した附属中学の歌詞は、その頃の雰囲気を与えているように思う。

県師の流れを汲む広島大学東雲キャンパスに、『東雲英語研究』という雑誌があった。1967年3月に創刊し、1973年2月の第7号まで発行されたようだ。全国の大学図書館データベース NACSIS Webcat で検索してみると、1~7号は広島大学が所蔵しているが、ほかにこの雑誌を所蔵している図書館はない。手許に置くことなど不可能だろうと思っていたが、ある方が4冊(創刊号、4号、5号、7号)を贈ってくださった。B5判、各冊2、30ページほどの『東雲英語研究』には、研究論考、実践報告、随想、研究会報告、卒業生の紹介、留学記など、様々な記事が小さな文字でびっしり詰まっている。『英語青年』を意識した体裁であると伺った。紙面のレイアウトなどにその雰囲気が漂う。表紙は私が学部・修士と6年間を過ごした校舎の写真だ。



ページを繰ると、東雲でお世話になった先生方の論考の数々を目にすることができ。恩師のご研究の一端に触れ、時代を超えて今に通じる言葉を噛みしめる。また、様々な記事の執筆者のお名前に、あの方もこの方も私の先輩だったのかと、感慨を覚える。

『東雲英語研究』第1号に「学習参考書というもの」(pp.6-8)、第7号の巻頭に「参考書と私」(pp.1-3)と題する木村明先生のエッセイがある。英文法の名著『英文法精解』(培風館、1960)の著者である木村先生は、広島市内の私立大学に勤務され、東雲では長く非常勤講師をお勤めになった。(木村先生については、岡田秀昭先生が「支部ニューズレター」No.33, 2002, pp.2-3で紹介されている。両エッセイは『英語と英語教育』第8号, 2003, pp.22-28に再録されている。)

木村先生は、商業学校勤務のころから長年、予習復習がおもしろくできるようなプリント作りを続けられた。集めた参考書を能動的に読み、エッセンスを集め、自分の考えを加え、何度もやり直してプリントにまとめる。こうした蓄積から、数々の参考書を出された。参考書を書くことについて、「教育的にみてこのくらい意義のある仕事はない」とおっしゃる。その「総決算」が『英文法精解』だ。解説も例文も極力平易にしたという。

私は今、英語の初歩でつまづいている大学生用の教材作りに取り組んでいるが、やさしい解説と例文がいかに重要で(しかも困難で)あるかを痛感している。「参考書の生命は、その内容がいかによく整理され、体系づけられているかにある」という木村先生の言葉を胸に、一步一步、進めていきたいと思う。『東雲英語研究』との出会いを叶えてくださった方に感謝しつつ。

(県立広島大学 / 中国・四国支部事務局長)

平成22年度 日本英学史学会 中国・四国支部 総会

第1回 (通算62回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成22年度支部総会、及び第1回(通算第62回)支部研究例会を下記の要領で開催いたします。開催準備にあたりましては、幹事の能登原祥之先生をはじめ、比治山大学の関係者の方々に格別のご配慮を賜りました。篤くお礼申し上げます。

今回の研究例会では、田中正道先生、松村幹男先生による研究発表が予定されています。皆様ぜひお誘いあわせの上、ご参集くださいますようご案内申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日時： 2010年5月29日(土) 12:50 受付開始
会場： 比治山大学 6号館 6108 講義室(国信教育館1階)
〒732-8509 広島県広島市東区牛田新町4-1-1
参加費： 会員、非会員とも無料
TEL 082-229-0121 (代)

支部総会 (13:20 ~ 13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、新年度活動計画、他

開会行事 (14:00 ~ 14:10)

支部長挨拶

研究発表 (14:10 ~ 15:10)

「**哈爾濱学院入学試験英語問題の特徴**」

田中正道(兵庫教育大学名誉教授・広島大学名誉教授)

休憩 (15:10 ~ 15:20)

研究発表 (15:20 ~ 16:20)

「**広島英語教育協会の設立と活動：昭和戦前期英語教育史研究**」

松村幹男(広島大学名誉教授)

資料展覧「比治山大学所蔵英学史関係資料ほか」(16:20 ~ 16:50 展示資料の説明、感想記入を含む)

閉会行事 (16:50 ~ 17:00)

副支部長挨拶、写真撮影

懇親会 (18:00 ~ 20:00) 広島市内の会場にて(会費 4,000円程度)

研究例会会場への交通案内 (比治山大学ホームページ <http://www.hijiyama-u.ac.jp/>より)



バス

【広島駅から】

福屋前 20 番乗り場

広島交通・JR バス： 千足、深川、高陽方面行 (にぎつ経由)

→ **牛田新町四丁目** 下車

B ホーム 8 番乗り場

広島交通・JR バス・広島バス： 高陽方面行 (バスセンター経由)

→ **牛田新町四丁目** 下車

【バスセンターから】

広島交通・JR バス・広島バス： 高陽方面行 (基町・東区スポーツ

センター前経由) → **牛田新町四丁目** 下車

【八丁堀から】

広島電鉄バス： 戸坂方面行 (白鳥・牛田大橋経由)

→ **牛田新町四丁目** 下車

アストラムライン **不動院前** (比治山大学前) 下車

キャンパス周辺図・キャンパス内校舎配置図



中国・四国支部ニュース

>> 事務局よりお知らせとお願い

名簿の改訂について

「会員登録内容の確認について」を同封していません。変更のある方は5月20日(木)までにお知らせください。(「Emailアドレス」欄にもぜひご記入をお願いいたします。メールアドレスをお持ちの方には、ニューズレター等のウェブ情報を電子メールでお届けします。)

合わせて、総会・例会・懇親会(5月29日)の出欠についてもご回答をお願いいたします。

会費の納入について

5月29日(土)の研究例会へご参加の方は、平成22年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第13号、および今年度の名簿をお渡しする予定です。

例会に参加されない方へは、例会終了後、今年度の紀要、名簿とともに、年会費用の振込み用紙をお送りします。

なお、昨年度未納の方へは、2年度分をご請求申し上げ、ご納入いただいた時点で今年度の紀要と名簿をお送りいたします。続けて未納の場合は2年めの年度末をもって「自然退会」となりますので、ご理解のほど、よろしくをお願いいたします。

紀要掲載料について

『英学史論叢』第13号の「研究論文」および「研究ノート」の執筆者の方は、5月29日(土)の研究例会受付にて掲載料をお支払いください。規定の10ページまでは3,000円、超過分は1ページ当たり1,000円をお願いいたします。ご欠席の場合は別途ご請求申し上げます。

研究発表者を募集します

今年度第2回研究例会は、12月11日(土)高松市の香川大学にて開催を予定しています。研究発表(口頭発表30分・質疑応答20分・計50分程度)をご希望の方は、9月末までに事務局へご連絡ください。

なお、研究発表のお申込は随時受け付けていますので、次年度以降を含め、ご希望の方は事務局までお知らせください。

会員異動(敬称略)

入会 高見 彰(たかみ あきら)岡山県

英学史学会全国ニュース

>> 「日本英学史学会報」No.121 (5月1日付)

史に聴けば マルタと日本人(橋内武)

英学史散策 お雇い外国人研究のパイオニア:

梅溪昇『お雇い外国人の研究 上巻』(山下英一)

高梨健吉先生追悼

支部活動報告・会告・学会だより ほか

「日本英学史学会報」No.121には、支部活動報告として、中国・四国支部平成21年度第2回(通算61回)研究例会の報告が掲載されています。

閲覧希望の方は支部事務局までご連絡ください。

>> 第47回全国大会

平成22年度の日本英学史学会全国大会は、10月23日(土)~25日(月) 京都大学吉田キャンパスを会場に開催されます。

日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費5,000円)。詳しくは事務局までお問い合わせください。

英学史情報ひろば

高見彰(2009)「備中高梁における洋学事情」

高梁川流域連盟機関誌『高梁川』67, pp.330-350.

比治山大学公開講座「ラフカディオ・ハーンと

今日性: 来日120周年を迎えて」(6月5日~7月

10日の毎週土曜日。詳細は同封資料をご覧ください。)

広島英学史の周辺(28) 比治山学園の「学祖」と呼ばれる

国信玉三(くにのぶ たまそう)先生の教育理念は、

「悠久不滅の生命の理想に向って精進する」という建

学精神として長く語り継がれています。先生のお名

前を冠した比治山大学の新館「国信教育館」で開催さ

れる春の例会。資料展示も予定しています。皆様とお

会いできますことを楽しみにしています。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.62

2010年4月30日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.62